

受賞作品集

第5回

トリエンナーレ

自由の女神

アート作文コンクール



テーマ：

「いきる ～『今』やってみたいこと～」

令和五年 五月二十八日

ごあいさつ

私共、ニューヨーク育英学園は二〇〇九年、創立三十年周の年に「自由の女神アート作文コンクール」を開催いたしました。世界のアートの中心地ニューヨークということもあってか、計四百点余りの作品があつまりました。テーマは「僕が私が大切に守りたいもの」で、力作が世界各地から集まりました。海外に住む子ども達ならではの伸びのびとした感性豊かな作品が多くあり、賞を決める審査員を困らせていました。

名誉審査委員長を引き受けて下さった平山郁夫先生は、残念ながら同年に他界なさいましたが、先生からは入院直前の電話にて、激励のお言葉を頂き、感激いたしました。学園では、平山先生の折角のご厚意を無にしない為にも、このコンクールをトリエンナーレとして、今後も続けて行こうという事になりました。コロナ禍も乗り越えて第五回目の「自由の女神アート作文コンクール」となります。今回も、作文・絵画とも傑作数百点が集まりました。テーマは「いきる」『今』やってみたいこと」です。

今回は、ニューヨーク日系人会と在ニューヨーク日本国総領事館のご協力により、表彰式と展示会を持つ事ができました。厚く御礼申し上げます。

海外の一私学の小さな企画ですが、今後も少しずつ発展し、子ども達の発表の場となれば、こんな嬉しいことはありません。

これからも、子ども達一人ひとりのニーズに合った教育機関として、子ども達の教育の為に邁進して参ります。

皆様の温かいご支援を宜しくお願いいたします。

二〇二十三年五月二十八日

ニューヨーク育英学

岡本 徹

「作文部門」 目次

小学校低学年の部

金賞	「かわいい妹」 寺井 恵麻（小二）	E一
銀賞	「夢のレールは続く」 藤田 志郎（小二）	E三
銅賞	「生きているだけで大ぼうけん」 能登 大賀（小二）	E四

小学校中学年の部

金賞	「発表会に出てみたい」 井川 明紀（小四）	E六
銀賞	（該当者無し）	
銅賞	「勉強したい！」 デニート 稀星（小四）	E七

小学校高学年の部

金賞	「今一番やりたいこと」 リン 高橋 素風（小六）	E九
銀賞	「糸の切れない世界」 堀 智貫（小五）	E十
銅賞	「これからの自分」 竹板 朋香（小五）	E十二

中学校の部

金賞	（該当者無し）	
銀賞	「最後の一个月」 井上 權（中二）	E十三
銀賞	「アマノジャクからの益」 増田 泉（中三）	E十五
銅賞	（該当者無し）	

高等学校の部

金賞	（該当者無し）	
銀賞	（該当者無し）	
銅賞	「子ども達の笑顔がくれたもの」 藤村 佳怜（高一）	E十八

特別賞

「カチュア」 堀 誠治（小二）	E二十
-----------------	-----

作文選定の様子から



～審査員の先生方～

作文部門

岡部弘美、藤田真祐子、リング陽子
松前綾乃、白井予保子、服部三香
新谷明子、武井直子

～NY育英学園トリエンナーレ

自由の女神アート作文コンクール事務局～

岡本徹
上妻雅浩
牧野佳代子
天野久美子
幸亜優美
青砥亮太
芝崎裕美

小学校低学年の部 金賞

と、お父さんと話しました。	わたしはときどきのんちゃんが目	がぁいます。すると、のんちゃんか	わたしを見て、わらってくれます。	そのとき、わたしはついっしやし	んやビデオをとってしまします。そ	のとき、わたしはいつも、	のんちゃんこっちむいてく。ほら、	ニューヨーク育英学園	と、言います。でもまだのんちゃん	は、	ッ あう？あうあうく。	と、言うだけです。わたしは、	一のんちゃんかわいいね。	と、声をあげてあげます。	のんちゃんはよく泣きます。ケッ	ッ が出ないときや、うんちをしたと
---------------	-----------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	--------------	------------------	------------	------------------	----	-------------	----------------	--------------	--------------	-----------------	-------------------

きに、
 おぎゃー。
 と泣きます。そのとき、わたしは
 っ大じょうふだよ。
 と、やさしく声をかけています。
 わたしはふたん、妹にミルクをあ
 げたり、だっとしてあげたり、ふく
 を出してあげたりして、おせわを手
 つだっています。赤ちゃんのおせわ
 は大へんなんだと気づきました。で
 もお父さんとお母さんはいつも入
 んで、手つだってあげたいので、赤
 ちゃんのおせわはやめたくありませ
 ん。それに、赤ちゃんが大きくなる
 のを見るのはたのしいです。
 わたしは、のんちゃんがもっ

ニューヨーク育英学園

と大きくなっ。たときには、わたしの
 とったし、しんやビデオをいっしょ
 に見たり、いっしょにあそんだりし
 てあげたいです。そしてそのころに
 は、コロナがおあっている、かぞく
 と遠くへ出かけることができたらい
 いなと思っ。ています。これからたく
 さんの思い出を妹と作っ。ていきたい
 です。

ニューヨーク育英学園

恵麻さんの優しい思いが伝わってきて、暖かい気持ち
 になる作品です。大好きな妹ののんちゃんをよく見
 て、上手に表現できています。大きくなった恵麻さん
 とのんちゃんがお隣同士に座って、おしゃべりしなが
 ら恵麻さんの写してあげた写真やビデオを観ている姿
 が目に浮かびます。これからものんちゃんとのひと時
 を書き留めていってください。

Dream Railroad Continues, Shiro Fujita

Japanese Children's Society, NJ

小学校低学年の部 銀賞

夢のレールは続く
 ぼくの好きなものは、電車だ。なぜかとい
 うと、使われる目的や地いきによつて、工夫
 がこらされていくから。また、デザインがか
 ついていだけではなく、その形になつていく
 理由がかならずあり、それを知ることが面白
 い。
 ぼくが二才のころ、兵庫県神戸市に住んで
 いて、山陽本線の線路近くに家があつた。か
 もつ列車が通る様子を見て、よく、
 ーデンシャ!!
 と、話していたそうだが、ぼくが、ママ、パパ
 の次に覚えた日本語なんだ。
 電車に乗ることと、電車を見るのが大好き
 だ。今までで一番思い出しているの
 は、秋田県の「リゾートしらかみ」に乗つて
 いたとき。気づくと、急に日本海のすぐ側を
 走っていて、びっくりしたんだ。東京駅や品
 川駅で在来線・新幹線のウォッチングをす

ると、どの車両が来るかドキドキしたなあ。
 でも、今はコロナウイルス感染症で、思
 いのまま旅行に出かけたり、電車に乗ったり
 することがむずかしくなっている。一つ目に、
 飛行機の便がへつている。二つ目に、かん光
 地がへいさしたり、予約制になつたりしてい
 る。三つ目に、遠くへ出かけることで、自分
 や家族が感せんしてしまうことがバ配だ。こ
 れらの理由から、ぼくが楽しみにしている、
 電車の旅をがまんした数年間だつた。
 ニューヨーク育英学園
 実さいの電車の旅ができなくても、ぼくが
 今でできることがある。それは、路線図や地図
 を使って、自分だけの旅の計画を立てること
 だ。日本の「鉄おも」というざつしで、車両
 の最新じょうほうをチェックすることもでき
 る。与るるぶ・世界の国大百科という本の
 世界の鉄道ページで、どの国にどんな鉄道が
 走っているのか、知しきをふやすこともでき
 る。他にも、自分で架空の路線を作つて、車
 両をデザインすることだつてできる。

コロナウイルスの研究が進んでいるから、
 おと少しでこんな大さわぎは終わると思う。
 そんな世界にもどたら、ぼくはまた電車の
 旅をしたい。今ぼくが家でしていることは、
 未来につながっている。
 将来、ぼくが大人になって、電車の運転士
 になれたとしたら……。仕事の時も電車に乗
 ることができるし、長い休みの時は、海外へ
 とび出して、いろいろな鉄道に乗ってみたい。
 そんな夢があるから、ぼくは今世界中で運行
 している電車とつながっている気持ちで、毎
 日を楽しむことができるんだ！

志郎さんの語りかける文体で、大好きな鉄道のこととてても
 よく伝わってきました。小さい頃の電車への思い出や、パパ、
 ママの次に覚えた言葉が電車というところが、本当にほほえま
 しく、志郎さんが電車の事を思いながら、毎日過ごしているこ
 とが目に見えます。コロナ禍になつてどこにも行けない中、
 電車の路線図や雑誌をみていろいろ空想することで、自分の夢
 をもう一度見つめ直すことができました。そんな鉄道へ夢を今思
 い描くことが、未来へつながることを自分で探ることができま
 した。「今を生きた」ということを体感できた素敵な作品でし
 た。これからの鉄道の夢に向かって、たくさんさんの思いを作文に
 書いてください。

Living Itself Is an Adventure, Taiga Noto
 Christ the Teacher Academy (Fort Lee), NJ

生きてるだけで大ぼうけん
 小ニ 能登 大賀
 二〇一五年、元旦の朝に、ぼくは
 生まれました。スッポーンと、お母
 さんの家のたたみのへやで生まれた
 ぼくは、でんせつの元旦ボーイ
 とよばれています。今、ぼくは新し
 い世かいを学ぶことが大好きで、自
 分のことをぼうけん家だと思っています。
 ぼくたち家ぞくは今までに、世か
 い中を回っています。カブボジアで
 は、トゥクトゥクというバイク三リ
 ん車タクシーののって町をいどうし
 ました。ガタカタした道や見たこと
 がない道を通ったり、道はたでフル
 ツをもらったり、毎日がぼうけん

ニューヨーク育英学園

小学校低学年の部 銀賞

でした。

インドでは、うち園でぼくがた
った一人の日本人でした。きゅう食
の主なカレーは、ぼくの大好ぶつで
した。インドにはたくさんのカレー
があつて、食べもののぼうけんでし
た。

アメリカにきておどろいたのは、

ニューヨーク育英学園

ここには色々な国から人があつま
ていることです。ぼくの知らない国
からきたお友だちもできました。ア
メリカにいます。世かい中のことが
わかる気がします。

世かいの国をまわることは、ぼく
たちにとつて、とても「かし」のあ
ることだそうです。言ばや文が「ち

がう園で生活することは、大へんな
ことも多いけれど、ぼくにとつては
サバイバルなぼうけんです。

二〇二〇年に新がたコロナウイル
スがはじまつて、今までとま、たく
ちがう生活になりました。学校や公
園に行けなくなつたときは、ふあん
になつたけれど、家族と毎日さん

ニューヨーク育英学園

ぼりするようになつて、今まで気がつ
かなかつた鳥や花をは、見しました。
家で本を読んだり、パソコンをつか
たりすること、家の中でもぼうけ
んできると知りました。

どこでも、いつでも生きている
とぼうけんです。そう思うと、ドキ
ドキワクワクが止まりません。

お父さんのお仕事でいろいろな国に住んだ経験を活かして、生き生きとした
エネルギーのある作品が書けました。これまでとは異なる環境や言葉、文化
の中で生きていくことは本当に大変なことですが、それをワクワクの冒険と
して前向きに捉え、家族と楽しく『生きている』ことが伝わり、読者に明る
い未来を感じさせてくれます。この先もいろいろなことが起こりますが、い
つもこの気持ちを大切に、今を楽しんで生きていきたいですね。

I Want to Perform at a Recital, Aki Ikawa Fort Lee School No.3 (Fort Lee), NJ

小学校中学年の部 金賞

発表会に出たい	四年	井川	明紀
わたしは今一番や、てみたい事は、ピアノの発表会に出る事です。わたしは生まれる前からお姉ちゃんとはピアノを習、ていて、お兄ちゃんも習、たりやめたりして、いっつもピアノの音を聞いて育ちました。わたしは習、ていませんでした。でも小二の終わりにお母さんに、	明紀ちゃんもピアノの先生に習、てみる	ニューヨーク育英学園	と、聞かれて、習い始めました。毎日練習するのは大変だし、楽ふを読むのもむずかしい。指も思うように動きません。何度も同じところをでつ、かえると、うんざりしていつももうやめたいな)と思います。
昨年アメリカに引、こして来た時は、船便で送、たピアノが届くまでの三ヶ月間、全く練習できませんでした。わたしは練習しなく	こよくな、こ、楽にな、たと思、ていました。		

家にピアノが届いて、アメリカでも先生が見つか、てピアノを習い始めました。そして十二月に発表会に出る事が決まりました。一生けん命練習しました。でも発表会前日にな、こコロナで中止にな、てしまいました。先生は、家でビデオさつえいしたものを使、こオンライン発表会を開いてくれました。わたしにと、て初めて出るはずだ、たピアノの発表会。音楽ホールのグラウンドピアノでひくはずだ、たマリオンネット。たくさん練習したけど、必ずどこかでまちがえてしまい、最後はもうこれぐらいにすると、あきらめた、何度もとり直したオンライン発表会用のビデオ。それを見て、やっぱり本当の発表会に出てみたい!と思うようになりました。	わたしは、洋服も文房具も、ほとんどお兄ちゃん、お姉ちゃんのお古を使、ています。ピアノの楽ふもそうびす。もうマルがついて、色々書きこまれた楽ふを見て、どれも前に聞いたことのある曲や、知、ている曲ば	ニューヨーク育英学園	
--	---	------------	--

かりびす。でも色々聞いた事があるから、今度はある曲をひいてみたいと思うことができません。ピアノの練習は家び一人でもできます。でもみんなの前でひいて、聞いてもらったり、他の人のえんそうを聞いたたりすることが、こんなにする気にながると、気づいていませんでした。そこであたしは、次は発表会に出ること、でも、もつとピアノが上手になると思いうのびす。わたしにと、これが「今生きる」ということかな。と考えました。

ニューヨーク育英学園

これまでわたしは「生きる」ということに、ついで、深く考えた事がありませんでした。でも今回の作文の通して、今自分が生きているということや、今の自分にできる事について考える事ができました。ピアノの練習や勉強はひとりでもできます。でもそれを伝える、合い、教え合い、他の人とながるといいう行動で、わたしや周りの人達の色いろな事にきよう味を持て、チャレンジしていけるようになる、と、気づく事ができました。

兄弟が習っていたので、言われるままに習い始めたピアノ。アメリカに来て、最初の発表会がコロナの為に中止になって、初めて感じた残念な気持ちがよく書けています。明紀さんは、ただ残念だと思っただけでなく、ピアノの練習は一人でもできるけど、聴いてもらうことや、他の人の前で弾くことが、やる気につながることに気づくことができました。相手がいて、その人たちとつながること、大切なことと見つける過程が、とてもよく伝わってくる作品でした。これからもピアノを通して、明紀さんの気持ちをたくさん作文に書いてほしいと思います。

I Want to Study!, Kiara Denitto Cliffside Park School #4 (Cliffside Park), NJ

小学校中学年の部 銅賞

勉強したい！
小四 補習校 デニート キアラ
今やりたいことは勉強です。将来何になりたいとしても、勉強して準備すれば選択できるからです。
コロナで一番大変だったのは、学校の授業がオンラインになりました。前は気軽に友達に会えたのですが、それができなくなりました。でもオンライン授業になって情報量が増えました。パンコンを使い始めたからです。その結果、学校の勉強以外にも多くの情報を得ることができました。友達に会えないことをネカテに、ブに考えるようにならず前向きにとらえました。
コンピュターを通して見えた世界の広かりは、将来の自分を想像するきっかけになりました。私はまだ十歳に過ぎませんが、将来について考えるのは理想的なことだと思います。学校ではよく大きくなったら何をしたいですか？

ニューヨーク育英学園

と聞かれましたが、自分は何をしたのかよくわかりませんでした。でもそれから数年後、本当にやりたいことは何ですかと聞かれた時、今度はよく考えるようになり、私は自分の将来かびうなるかを見つけようと思いました。みんなきょうりゅうが好きだから古生物学者になりたい！とガヴ？イオリゾが好きだからヴイオリゾそうしやになりました！と言っていました。それで私も一番好きなものは何か考えたとこ、わかりました。動物！動物園の

ニューヨーク育英学園

飼育係になりたいと思うようになりました。コロナのえいきょうで私が一番悲しかったのは、日本にいるおじいちゃん力満気で長く生きられないと分かった時、かくりなびのせいげんのため、おじいちゃん最期に会うことができずお葬式に出席できなかったことです。家族の人生の終わりを目の当たりにしました。会えなかつたことが死について考えるきっかけになりました。そして今生きているのだから将来の夢をかなえるために勉強した

いと思うようになりました。生きているからこそ、なりたいたいことがたくさん湧いてきます。そのための勉強と準備が重要です。コロナはひとの生と死、生きているからこそ自分の未来を切り開くやりたいたいことを考える機会を与えてくれました。

ニューヨーク育英学園

コロナ禍の友達と会えないつらい期間をパソコンとの出会いから、自分をみつめなおす期間としてポジティブにとらえたのです。そしてコロナ禍の制限の中で最後のお別れすらできなかったつらい体験が、より生について考えるきっかけとなったのです。それらの体験を通し、「今、生きているからこそ」、自分ができることは何か考え、今はいつか夢をかなえる時の準備期間として勉強すること、それが今自分が出来る精一杯のことなんだと、気づいたことが素晴らしいと思います。文章全体から稀星さんのやさしい人柄が伝わってくると同時に、つらい経験を乗り越えていく稀星さんの強さも感じました。

What I Want to Do the Most Right Now, Sophie Takahashi Lin The Brearley School, NY

小学校高学年の部 金賞

今一番やりたいこと
私は今やりたいことがわかりません。やり
たいことを考える時間がなかりです。
今の私がやりたいことは、とても小さいこ
となので、すぐにやることかです。例え
ば、スカートを作ったり、図工をしたりする
ようなことです。やりたいことが何かと見え
ていると、今度は時間がありません。時間が
あれば、もうやりたくなくなっています。
ニューヨーク育英学園
私の毎日は、宿題をしてバレエとバイオリ
ンを練習し、算数の勉強をしています。フラ
ンス語、日本語の勉強と乗馬もやっています。
時々教会でボランティアもしています。
なぜこんな色々なことに挑戦しているの
かかというと、お父さんに言われたからです。
お父さんは、小さい時学校が終った後に何
もやれなかつたそうです。お父さんは私に、
いっつもやるチャンスがあつたらやる方がいい
と言います。やめてもいいけれど、一度はや

つてみたと言っています。私はそんなお父
さんの意見を聞いて、今いろいろなときや
っています。
でも、一度やり始めたグキョウセルするの
が難しいので、どうしてもやることになりま
す。やりだくれないと思う時があるけれど、お
父さんががっかりすると思つて頑張つて続け
ようという気持ちになります。
今、私が一番ほしいものは自由時間かもし
れません。何もなくてもよい時間が少しあ
るといいなと思います。自分が何をやりたい
のか考えるチャンスになるかもしれません。
時々やりたいことがあつても、本当にやり
たいのか、お父さんがやつてほしいと考えて
いるのかわからないう時もありません。
もし充分に自由時間があつたら、将来や
つてみたいことを考えたいです。私は、大き
なつたら、ベーカーリースョップを開きたいで
す。お父さんは、お料理が好きなので私が店
を開きたいと言つたり、きつと賛成してくれ

ると思います。

今は、何をやりたいたのかさがしているところなのかもしれません。もし何かがあつて、例えば今回のようにコロナがはやりたり、やりたいたいこともできなくなつてしまっています。今は何も考えず、自分の目の前にあることは、チャンスだと思つて、いろいろ試してみたいと思います。そして将来はその中から一つやりたいことを選ぶことができれば、いいと思つています。

ニューヨーク育英学園

とてもストレートに、自分の気持ちを語っているのが、この作品の魅力だと思います。それが、時代や環境が異なっても、ああ、この気持ちわかるなど、共感させてくれるように思います。「お父さんががっかりさせたくない」「時々本当にやりたいたいか、お父さんがやってほしいと考えているのかわからない時がある」とお父さんの存在が常にそふいさんにとって大きいのだなと思いました。本当に大好きなお父さんなのでですね。それはお父さんが自分のことを本当に思ってくれていることをわかつていて、またそれができることは恵まれていることも自覚しているからだだと思います。だからこそ、自分ができなかったことを子どもにやらせてあげたいというお父さんの思いや、今「やりたいたいことがわからない」自分自身も丸ごと受け入れることができるのだと思いました。家族との絆の強さと、そふいさんの芯にあるたくましさを感じました。

A World with Unbreakable Thread, Motoki Hori POB Middle School, NY

小学校高学年の部 銀賞

糸の切れない世界

小五 堀 智貴

この夏、ぼくは五週間のお泊まりキャンプへ行つた。

だれも知っていないキャンプだ。カウンセラームキャンプにまていている子どもたちも、その親たちもだれも知らない。日本人もいない。キャンプ場へ向かうバスに乗る前にお風呂飯もまん張して、食べる気がせず、スパーで買つてもらつたラムネをいそいで流

ニューヨーク育英学園

しこんだ。いつもならも、と味わうけれど、このときはあまり味も感じなかった。

キャンプ場に到着した後、係の人に

「四年生、五年生はこち。男の子だけ」

と言われて、付いていくと、いきなりシラミ

チェックをされた。列に一緒にならんでいた

アレックスによると、ここでシラミが見つかる

とバリカンで丸ほうずにされるらしい。もう

検査を終えた上級生が大声でさわいでいる

「うわーやばいキャンプに来ちゃったな」

とさらに不安になった。

それでも一週間くりいじてくると、毎日同じことのくり返してだんだん慣れてきた。同じ部屋の友達とも楽しく話せるようになった。また。

でも三週間目に事件が起きた。同じ部屋のジェイソンはみんなのことを考えず、自分の好き勝手行動していた。いよいよみんなの我慢も限界になってジェイソンに注意した。そしてだら

ニューヨーク育英学園

「日本人なんてバカだ。」
と言われた。それを聞いて、一気に悲しくなりました。なんでそんなことを言われな

いといけないのか、と怒りの気持ちわいてきた。その後、ジェイソンはあやまってくれだし、少しずつ時間が経って、ぼくも怒りの気持ち落ち着いてきた。

そして最終週、青組で三日間、本気で戦った。ハイライトはつな引きた。ぼくは青組の先頭に立って、つなを引っぱった。途中で足

をすべりせて、転んでしまった。危いで立ち上がった。合図に合わせて必死につなを引っぱった。今度は赤組の先頭に立っていた子がたおれて、その後ろの子もたおれた。

「今だー！」
と思っ て必死につなを引っぱった。二こで勝負は決まった。ぼくたちが勝ったのだ。

コロナ禍のオンライン授業ではネットが切れたし、人間にムカ切れてしまうようにながりがなくなってしまう。た。パソコンを閉

ニューヨーク育英学園

いたち、そこで目の前にいた友達や先生はいなくなってしまう。ただどキンプでは、ずっとみんなつながっていた。ドキドキきんちようしていた時も、ジェイソンがやなことを言っ て悲しかった時も、つな引きで勝つてうれしかった時も、ずっとつながっていた。

ぼくは糸が切れない世界で生きていきたい。

知っている人が誰もいないキャンプに五週間参加する前の緊張感、シラミが見つかったらバリカンで丸坊主にされるかもしれないとつる不安、智貴くんの心の動きがよくわかります。ジェイソンとの楽しくないやり取りや、それを超えてみんなで力を合わせて勝った綱引き。一回りもふた回りも大きくなって帰ってきた智貴くんを見て、ご両親はきつと誇らしく思ったことでしょう。「糸の切れない世界」がずっと続くことを願う気持ちがよく表れた作品でした。

Myself From Now On, Tomoka Takeita

Qingdao Japanese School, China

小学校高学年の部 銅賞

これから	の自分	小5	竹板	朋香
私は約一年お父さんと会えない日々を過ご	しました。仕事の関係で私が三年生の秋に中	国へ行きまして三年生の春私も中国へ行	く予定でした。かコロナウイルスにより行けな	くなりしました。
みなさんの中にもコロナ禍で悲しい思いや	つらい思いをした人たくさんいると思います	す。これからどんな気持ちで生きていきたい	ですか。	
私はこれから的人生自分をもて生きて	いきたいです。私は自分のために勉強したこ	とがありませんでした。りっもりっもお母さ	んに	
なんのために勉強しているの	ときかれます。私は勉強や宿題を目的もなく	しています。宿題をする理由はただ一つ、先	生におこなわれないためです。みんなしうら	りやくにたつとり、ているけれど本当にやく

ニューヨーク育英学園

にたつのでしょうか。目的もないのに勉強し	てはいけなりのでしょうか。そう思うたび	自分のために勉強するの。てつまらないと思	います。だからこそ本当の自分がほしいので	す。
この夏私はある本と出会いました。本の	タイトルは「スマイルマン」の夜に。そこに	出てくる沙羅という人物に、自分を育ては	強くなれると教えてもらいました。	沙羅は全身校則違反で学校に來ています。
理由はおくびょうだからです。校則違反なん	かすると、先生に怒られたらどうしよう。み	んなにつめた目で見られたらどうしよう。	なぜ不安で心がうめつくされてい。てしま	のです。でも沙羅は、ありままの自分を守る
ために校則違反をしているのです。私は自分	を守るためでも校則違反はできません。そう	考える。沙羅、てすごいと思います。	このように私はまだ弱く、おくびょうです	が、これから成長し、世の中を生きていき

ニューヨーク育英学園

い、です。自分を持つことも目標に、自分をも
てたらそのまま、ありのままのすかたで、強
くな、ていきたいです。

ニューヨーク育英学園

目標がなく、お母様に言われるから勉強し、先生に怒られないよ
うに宿題をし、校則を守っている。そんな自分の混沌とした気持
ちに目をむけ、淡々と話をすすめています。このように自分と向
き合うことで朋香さんは「弱くておくびよう」な自分から一歩前
に進めたのではないのでしょうか。小学校高学年の子供らしい心の
葛藤がよく表された作品でした。

The Final Month, Kai Inoue Cresskill Middle School (Cresskill), NJ

中学校の部 銀賞

最後の一月
僕の小六年生の時の理科の教師はH先生
と呼ばれていた。その頃はコロナの真最中。
授業は全てオンラインで行われていた。先生
は静かで、六年生の僕には少しつかみどころ
のないおいさんのような印象だった。いつも
白衣を着ていて、本物の科学者のように思え
た。当時のオンライン授業は、まだコロナが
始まって間もないころであって、慣れないもの
だった。先生がカメラの奥で実験をすると、
見にくく、いし分りにくい。そして何よりも
集中するのが困難だった。教室とは違って自
分の部屋にいと周りに気がそれてしまいい、
頭はいっぱい分は違うことを考えてしまっ
いた。
先生は生徒の反応をよく見る人だと僕は思
た。大学の教室で、生徒と雑談しながら授
業をする、そんな姿が目についた。しかしオ
ンラインではそれは難しいことだった。話すの

には毎回ミュートを外さないといけな。先生が画面越しに話しかけても、答えない人が殆んどだ。た。めんどくさい。黙っていれば誰か他の人が答えてくれるだろう、というのがみんなの本音だ。たと思。あの気まずい沈黙が今まで何回あったか。た。うか。た。え、半分かりましたか？。という程度の質問に、対して、大半の人がミュートを外そうとしな。い。周りが静かた。ますますプレッシャーがかかる。僕は始めは答えていたが、後になる

ニวยอร์ก育英学園

といん。ん気が重くなり、やがてわ。わ返事をすることをしなくな。ていた。先生の戸惑い、苦々しい表情は今も目に浮かぶ。

やがて授業はオンラインと対面のハイブリットに切り変わった。教室の授業の時から先生は生き生きして、いる。ような気がした。しか。しある日、急に先生がこう言った。

「君たちが今までの実験の中で一番面白かったことをもう一度今日はやる。」

今考えてみると、先生は自分の授業を僕たち

は好きいや。ないと思。ていたのかもしれない。心当たりはいくらでもある。もしかしたら僕の考えすぎかもしれない。しかし僕にはそう思。えてならない。

ある平日の午後、母の携帯の着信音が鳴。た。母が手に取。てメールをチェックする。すると黙。て携帯を僕に渡した。

先生が七くな。た。持病で。

頭がしびれる。先生か？

先生が七くなることを、誰が想像した。ら。うか。また会えると思。ていたのに。持病があ。た。な。て。オンライン授業の時の先生が目に浮かぶ。あの気まずい表現。そしてあの言葉、教師であり、生徒と過。す。こと。が先生の生きが。い。だ。た。と思。う。それを僕たちは、返事もせずに、尊敬を。し。な。か。た。悲。しい。先生の最後の一カ月の授業があ。んなものにな。て。しま。つ。て。

面倒くさい。みんなが黙。て。いる。中。で。一。人。たり話。す。のは気が引ける。そんなことはもう

中学校の部 銀賞

ち、ほけに感いる。なぜあの時も、と積極的
に話さなか。たのだらう。分か、てたのに、
黙、てたらダメだ。て。僕もあの静寂が嫌い
だ。たのに。なぜ自分で破らなか。たんだ。
一人だけ声を発することか。な。こんなに気が
引けるのだらう。一人で答えるのは、最後れす
る。でも答えなかつた時のあの静寂は比べ物
になら。ないくらいに、肩ま。ずい。最後の一カ月
は僕たちでいく。らでもよくできたはずだ。
で、きる。こと。なら。やり直したい。こんな後悔
ニューヨーク育英学園

専科の教師と生徒が共有する時間は限られている。しかも權
君とH先生とが共有したそのわずかな時間は決して充実した
時間だ。た。わけではない。しかし、先生の突然の死を知らさ
れると權君は、生前の先生の授業に積極的でなかつた自分を
責める。悔やむ。その葛藤する心の内が先生の授業の思い出
と呼応しながら描かれる。それはまさに子供から大人に変わ
る微妙な年齢だからこそ書ける繊細な描写だと思つた。そし
て、そんな心情描写が続いた後の最後の三行がこうだ。「で
きる。こと。なら。やり。な。お。し。たい。こんな後悔はもうしないよう
に、僕は自分に正直に生きられるだろうか」過去との和解
には未来への約束が必要なんだ。ということに気づく。生きる
ということ。は。そう。いう。こと。なんだ。という鮮やかな終結が印
象的な作品だ。

Benefits of Inconvenience, Izumi Masuda
Gunma Kokusai Academy, Japan

ア。マ。ノ。ジ。ヤ。ク。から。の。益。
コ。ロ。ナ。ウ。ィ。ル。ス。の。感。染。者。が。日。本。国。内。で。初。め。
て。検。知。さ。れ。た。の。は、私。が。小。学。六。年。の。冬。だ。た。
未。知。の。ウ。ィ。ル。ス。が。日。本。に。も。来。て、感。染。者。が。急。
増。し。て。い。る。こ。と。を。ニ。ュ。ー。ヨ。ーク。で。聞。く。た。び。に、私。
は。恐。怖。を。感。え。て。い。た。感。染。拡。大。を。防。止。す。る。た。
め。に、マ。ス。ク。の。着。用。や。自。粛。生。活。を。余。儀。な。く。さ。
れ。人。々。の。生。活。は。一。変。し。た。私。の。通。つ。て。い。る
学。校。も、今。ま。で。通。り。の。対。面。授。業。下。は。な。く、オ
ン。ラ。イ。ン。で。の。授。業。と。な。つ。た。新。し。い。学。習。環。境。
や。新。し。い。生。活。習。慣。に。慣。れ。て。い。く。こ。と。は。大。変。で
あ。つ。た。何。よ。り、人。と。の。接。触。が。遮。断。さ。れ。た。
め。に。友。達。と。会。え。な。い。こ。と。が、私。に。と。つ。て。の。一。
番。の。ス。ト。レ。ス。と。な。つ。た。コ。ロ。ナ。ウ。ィ。ル。ス。に。よ。
つ。て。生。じ。た。不。便。が。教。え。さ。れ。な。い。ほ。ご。あ。る。生。活。
を。送。つ。て。い。る。こ。と、不。安。や。ス。ト。レ。ス。が。増。し、何。
に。対。し。て。も。落。ち。込。ん。だ。気。分。の。日。々。が。続。い。た。
そ。ん。な。あ。る。日、母。が。
一。緒。に。犬。の。散。歩。に。行。こ。う。と。

What the Children's Smile Gave Me, Karen Fujimura

The Bronx High School of Science, NY

高等部の銅賞

のとき私は「足が不自由なかな」
くれました。彼女が車椅子に乗って、こ
して私とコミニケーションを取ろうとし
けれど、色んな音を出したり、手で触
愛い女の子です。上手に話すことはでき
小学三年生のさわちゃん。とても明る
最初の日、私が担当したのはさわんご
するのは初めてのことでした。
ちを街で見かけることはあっても、実
するのには初めてのことでした。
ランティア活動を行いました。障害者の人
日本へ一時帰国し、その間自分にとっ
の経験をしたくて、児童障害者施設でボ
て世間を現実的に感じたことです。今年
生懸命生きています。それ、今を一
撃的な出来事がありました。それは、今
この夏、今までの私の人生にはなかつた
の笑顔に会いたい！
「この子達とまた会いたい。来年、またこ
子ども達の笑顔がくれたもの
藤村 佳怜

思いませんでした。この日私たちは他の児童
やスタッフと遊園地に行き、そこで障害者に
対する差別を受けました。さわんごがお化
け屋敷に行きたいと一生懸命伝えてきたの
で、私は車椅子を押して連れて行き、列に並
びました。その時お化け屋敷のスタッフは、
私たちを無視して他のお客さん達を先に入
れたのです。そして私たちはお化け屋敷に入
れません。私は「車椅子に乗っている子
を見て差別をしたのか」とすごくショックを
受け、「差別は良くない」とでは言うけれど
実際にはあるんだ」と悲しくなりました。帰
りのバスの中で、さわんごは私の手を握りな
がら歌い、ずっとニコニコして、「私の
ことを受け入れたんだ、本当に可愛いな
と私もさわんごが好きになりました。この日
が終わる時、さわんごは筋ジストロフィーと
いう病気なのだと言った。筋肉が衰えていく難病
だ。この病気は徐々に筋肉が衰えていく難病
だと知り、私は大きなショックを受けました。

こんな無邪気で可愛いさわんざが、恐ろしい病氣と戦っているのが想像できませんでした。またある日、シャボン玉やハーモニカを吹いて遊びました。さわんごはシャボン玉を一ツしか作って飛ばすことができません。ハーモニカも一息吹いて音を出す程度です。それでもとても嬉しそうにして、笑顔を絶やさず。ことはあります。私は「さわんごは毎日を今を楽しんでいるんだな、一生懸命生きているんだな」と心から感じ、「私はどうだろう、同じような毎日を繰り返し、その時その時を本当に楽しんでいるだろうか？」と考えさせられました。

ニューヨーク育英学園

また別の日、この日は、車椅子に乗っている子、全身麻痺している子などと共に、鍾乳洞へお出かけしました。正直「どうやって中まで連れて行くんだろう、無理じゃないか」と内心思いました。他のお客さん達も同じように目で私たちを見ているか感じてました。ところが、スタッフの皆さんは必死に車椅子を

押して、また入っていけないところは抱っこして、普通の人と同じように中に入っていききました。私は驚いたのと同時に、できないことはないんだ。障害者だから無理だろうと諦めるべきではないんだ。と気付かされました。これまでに、障害者には無理だろうと思っただけ出来事があったけれど、それは勝手な決めつけで偏見だったということ。思い知らされました。

ニューヨーク育英学園

に私が一緒に遊んだ子ども達みんなが泣いてくれました。最初は手話も分からなくて、子ども達も私のことを気に入ってくれたのかどうかも分からなかったけれど、楽しい時間を過ごしたことで、お別れが寂しいことを涙を流して伝えてくれていたんだと、私も涙が止まりませんでした。耳が聞こえなくても、うまく話が出来なくても、嬉しい、寂しいなど感情は表わせるし、きちんと伝わるのです。一週間の短いボランティア活動でしたが、

この経験から今まで知らなかった世界を知り、心を動かされ、二つの大切なことを学びました。一つは障害者であっても、危険でない限りやりたいこと、やらせたいことをあきらめ、必要はない。障害者だから無理だが、私たちが違っているという偏見を捨てるべきだと思います。みんながそうなら、お化け屋敷での出来事のようなことは起こらないのです。そしてもう一つ、毎日を満喫する、その瞬間を楽しむということが、もっと充実した人生にしてくれるということです。さあ、がんばりましょう。そして生きるということは、あきらめないうで、色々なことに挑戦してみようという勇気を持つことだと教えてもらいました。私はこの経験を無駄にしない人生を送りたいと強く思います。

ニューヨーク育英学園

一週間の障害者施設でのボランティア体験は、佳伶さんにとっては驚きと苦勞の連続だったはずだ。なのにこの作品には始めから終わりまで静かな時間が流れている。特に印象に残ったのは、お化け屋敷で差別を感じて悲しい気持ちになった後、すっと帰りのバスの描写に移るところだ。そこにはこう書かれている「帰りのバスの中で、さわんごは私の手を握りながら歌い、ずつとニコニコしていて、「私のことを受入れてくれたんだ、本当に可愛いな」と私はさわんごが好きになりました。」と。どんな理不尽な出来事に会っても、今を一生懸命楽しもうとするさわんごに、佳伶さんの気持ちと和らいでいく場面だ。そしてそんなさわんごと過ごした日常の中で彼女は気づいていく。「生きる」とは自分に限界をつけず、毎日を満喫すること、楽しむことなんだと。それはまさにさわんごの生き方そのものであると。佳伶さんのさわんごを見つめる視線がまっすぐで穏やかであるそのことが静かな主張となつて私たちに届ってくる作品である。

Kachua, Seiji Hori

Stratford Road Elementary School (Plainview), NY 特別賞

カチユマ、セイジ
7月8日、ぼくのワ
さいのたん生日に亀を
かいました。
ニューヨークいくえいがくえん
ヨツユビリクガメです。
名まえはカチユマです。
カチユマは、ぼくが生
まれたイソトのこそば
です。「亀」といいます。

ミ	ボ	ヨ	六	ち	ビ	ガ	と		マ
で	ブ	ッ	び	ば	ま	、	お		の
す。	さ	フ	き	ん	し	こ	も		人
	ん	ゴ	い	小	た。	れ	っ		っ
	の	が	る	さ		か	た		は
	ペ	い	な	い	小	ら	か		こ
	ッ	ま	か	亀	さ	大	チ		も
	ト	し	で	を	い	き	ユ		た
	ッ	た。	い	え	ほ	く	お		お
				ら	う	な			

ニューヨークいくえいがくえん

さ	カ	れ	い	五	れ	十
な	チ	し	ま	で	く	の
い	ユ	く	の	す。	ら	し
よ	ア	な	み	こ	い	み
う	を	り	る	れ	大	で
に	み	ます。	と	か	き	す。
き	う		う	な	く	
を				る	な	
つ				ガ		
け						

ニューヨークいくえいがくえん

「6びきいるなかで、いちばんちいさいかめをえらびました。ちいさいほうが、これから大きくなるとおもったからです。」この文章は衝撃だった。彼は当たり前のように私たちに命をはぐくむ大切さを教えてくれる。それも無駄のないやさしいことばで。それは「はこをたおさないようにきをつけました。」や、「今の重さは三四五グラムです。」の表現にもみられる。彼は、声高に自分の気持ちを叫ぶことはしない。淡々と自分とカチュアの関係を書いてくる。しかし、そこには「生きていくってこういうことなんだよね。」という彼の主張が読み取れる。素晴らしい作品だと思った。「ところで誠治君、三四五グラムだったカチュア。今は何グラムになった？」



NY 育英学園 NJ キャンパス
裏庭（春：八重桜満開）



NY 育英学園 NJ キャンパス
玄関脇（秋：色づく木々）



NY 育英学園 NJ キャンパス
グラウンド（冬：雪で真っ白）